

皿、はしを食べる時代に 脱プラが急加速



弊社の丸型海苔カップ

木村アルミ箔の「食べれるうつわシリーズ」。エコでおいしいと利用者は広がっているという
掲載アドレス
<https://www.sankei.com/west/news/200218/wst2002180006-n1.html>



国内の食べられる器作りの草分け的存在が、お弁当などでおかずを仕切るためのアルミ製やプラスチック製カップを作っている木村アルミ箔（はく）（大阪府中央区）だ。
「これまで多くのプラスチックを使ってきた企業だが、将来の環境を考えると、プラスチック削減に取り組みなければいけない」と話す木村裕一社長。生活共同組合などに納入するなど販路を拡大し、一口で食べられる寿司やおかずを入れる容器として家庭でも人気を集めているという。

「エコについて考えてもらうきっかけになれば」と、さまざまな企業がプラ容器包装の削減に取り組んでいます。



エスプレッソカップ

「R・Jカフェ」で提供される食べられるカップ、エコプレッソ。SDGsの文字をあしらったものも

モナカ生地容器 (e-tray)



丸繁製菓が販売する食べられる容器。食べやすいように味と食感にもこだわっている



同じく、丸繁製菓の開発した食べられる箸